

行政視察報告書

視察報告者 佐藤 和彦

- 【視察期間】 令和元年 10 月 16 日(水) ～ 令和元年 10 月 18 日(金)
【視察日時】 令和元年 10 月 16 日(水) 14:30～16:30
【視 察 先】 鳥取県倉吉市
【視察内容】 「レトロ&クールツーリズムによる観光の取組について」
【説 明 者】 倉吉市企画産業部次長 谷田 富穂 様
商工観光課 観光係 主事 垣原 将志 様

【事業概要】

鳥取県の中心部に位置する倉吉市は人口4万8千人で、白壁土蔵群のレトロなまちなみや、開湯1300年の歴史を持つ関金温泉などの観光資源を有しているが、白壁土蔵群では平均滞在時間が2時間以内と短い事や、倉吉市内を宿泊先とする割合が3割にとどまる等の課題を抱える中、フィギュアや「ねんどろいど」などエンターテイメント等コンテンツへの絶大な影響力を持つグッドスマイルカンパニーが平成26年に日本初、倉吉工場が誘致できた事をきっかけに連携したまちづくりがスタート。

その後も音楽配信コンテンツ「ひなビタ♪」の舞台となっている架空都市「倉野川市」は倉吉市ではないか?とのファンの間話題を見逃さず、架空都市との「姉妹都市提携」を行うなど偶然のチャンスを悉く活かし切り、平成27年度にはフィルム博覧会を倉吉博物館で開催し全国から一か月で2万5千人が来場するなど矢継ぎ早にアクションを起こしている。

【所 感】

基本のコンセプトは「知ってもらい・訪れてもらい・交流し・リピーターになって頂く」との事で、現存するチャンスも含めあらゆるものを活用し関連付け、常に新たな魅力づくりを発信し、大手企業のコナミなどの動きを活かし巻き込み、特に市の予算は年間僅か200万円でこれだけの実績をあげている事を見習うべきである。

次々に新しいもの(チャレンジ)から古き良きものを引き立たせ、常にアンテナを広く張って見逃さず市の無形有形の地域資源を活かす(便乗する事も含め)仕掛けが大変重要であると痛感いたしました。

- 【視察日時】 令和元年 10 月 17 日(木) 13:30～15:30
【視 察 先】 岐阜県高山市
【視察内容】 「高山市協働のまちづくりについて」
【説 明 者】 高山市市民活動部協働推進課 課長 水口 広 様

【事業概要】 みんなでつくる接続可能なまち

～市民のみなさんと進める「協働のまちづくり」～

基本的には小学校区単位をベースとし、まちづくり協議会に対する市の関わりとしては、財政的支援・人的な関わり・事務所の提供・要望への対応の4点で、新たな地域課題の解決への追加支援としては地区活動への支援金を創設し、全体的には総額2億5千万円規模で新たな地域課題の解決へ向けて財政的な追加支援として、まちづくり協議会事務局の人件費の追加支援や、協働のまちづくり講師派遣事業の講師謝礼や旅費などが主な費用として支援されている。

さらに市が別枠で約2億円程度の予算枠を持ち、市民生活の基盤となる市道及び付帯する水路の維持・修繕は、各地区に予算枠を設け、各地区による実施事業の決定を踏まえ市が実施する形態をとっている。

また、人的な関わりについては居住する地区のまちづくりの活動に市職員が積極的に参加するなどが特筆する点です。

【所 感】

高山市独特であろうと思われませんが、職員が地域をサポートするスタンスのあり方や負担が懸念され、任期も2年間で主に出身地区をベースにローテーションしているようですが、特に小規模地域ではローテーションが大変であるとの事でした。

やはり職員の皆様にとってはある意味職務外との思いもあろうかと思えますので、慎重な対応が求められると考えます。

また、市道及び付帯する水路の維持・修繕は、各地区に予算枠を設け、各地区による実施事業の決定を踏まえ市が実施する形態については各地区での協議段階での必要性の有無や優先順位など大変デリケートな問題で、ある意味地域での決定については意見集約決定が大変困難だと考えます。

そうした中、本市でも活用できる内容として、別な角度からの協働のまちづくりにおいて若い人達の参加の場を設けようと、地元特産品の開発や地元特産品を使った創作料理コンテストなどもおこなっているとお聞きしました。若い人たちの新鮮なアイデアが地元特産品に付加価値と興味を湧かせる良い機会となるのではないかと思います。